

新SNSイベント「#私のアクション」を開催！

10月は、世界の飢餓や食料問題について考え、解決に向けて一歩を踏み出す「世界食料デー」月間です。世界には、十分な食べ物があるにもかかわらず、約6億7,300万人もの人びとが飢餓に苦しんでいます。今、私たちにできることは、まずこの現状を知ること。そして、その事実をできるだけ多くの人びとに伝えることです。

そこで、飢餓のない未来に向けたアクションを広げるため、特別ゲストがそれぞれの経験から得た気づきや、日常の中でできるアクションを「#私のアクション」として語る動画をSNSで順次公開します！動画をを通して、飢餓の現状や支援のかたちを知るきっかけとなる情報や、行動への一歩を後押しするヒントをお届けします！



・ご参加方法・

1 動画を見る

国連WFP協会のSNSアカウントをフォローして、ゲストが語る「#私のアクション」動画をチェック！

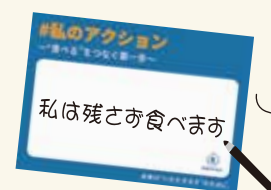
フォローは
こちらから



2 あなたの「#私のアクション」を考えて書く

記入用ボードをご用意していますが、オリジナルでの作成もOK！「残さず食べる」「身近な人に伝える」「レッドカップキャンペーンの商品を選ぶ」…思いついたことを書いてみてください。

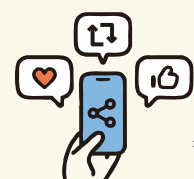
記入用ボードは
こちらから
ダウンロード



オリジナル
デザインも
大歓迎！

3 「#私のアクション」をつけて投稿

SNSに投稿してください。共感した「#私のアクション」のシェア也大歓迎です！



皆で盛り上げましょう！

この10月、一緒に「#私のアクション」を考えてみませんか？
あなたの一歩が、未来の“いただきます”につながります。

レッドカップキャンペーン



国連WFPが学校給食を入れる容器として使っている「赤いカップ」を目印に、毎日のお買物で学校給食支援ができる国連WFP協会のレッドカップキャンペーン。新たに2社が参加しました。売り上げの一部は学校給食支援に寄付されます。

<https://www.jawfp.org/redcup/>

日清シスコ株式会社



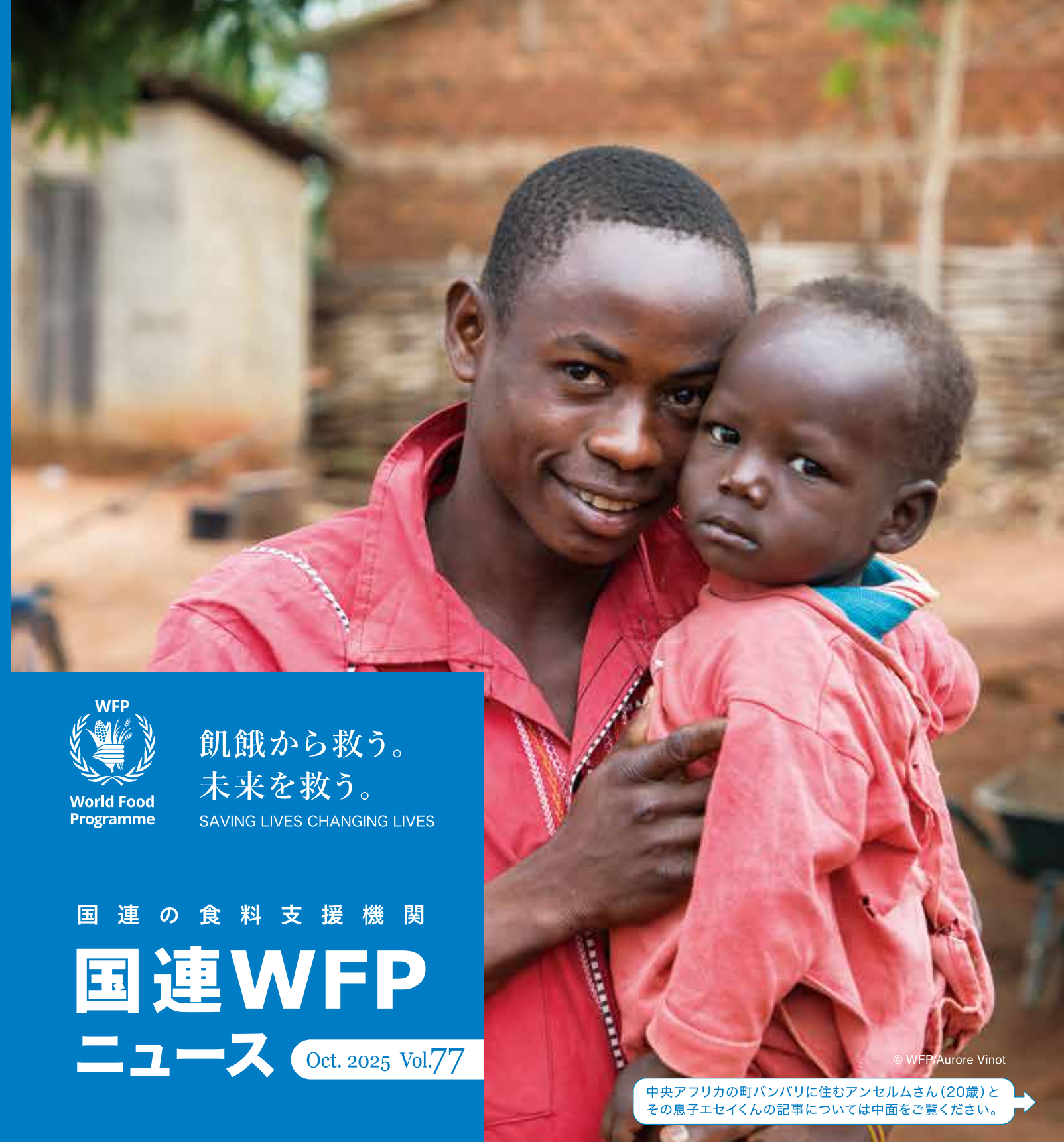
明星食品株式会社



国連世界食糧計画(WFP)日本事務所
認定NPO法人国連WFP協会

<https://ja.wfp.org/>
〒220-0012
横浜市西区みなとみらい1-1-1
パシフィコ横浜6F

ご寄付はこちら



飢餓から救う。
未来を救う。
SAVING LIVES CHANGING LIVES

国連の食料支援機関

国連WFP
ニュース Oct. 2025 Vol.77

© WFP/Aurore Vinot

中央アフリカの町バンバリに住むアンセルムさん(20歳)とその息子エセイくんの記事については中面をご覧ください。

「世界の食料安全保障と栄養の現状」
報告書

「世界の食料安全保障と栄養の現状(SOFI*)」報告書

2025年版が発表されました。今回はその中から、ぜひとも知っていただきたいポイントを要約してご紹介します。

SOFI
報告書
とは

飢餓や栄養不良をなくすための世界の取り組みをモニタリング・分析する年次報告書。5つの国連機関(国連世界食糧計画(WFP)、国連食糧農業機関(FAO)、国際農業開発基金(IFAD)、国連児童基金(UNICEF)、世界保健機関(WHO))が協力して作成しており、世界の食料問題の現状と課題を伝えています。

* The State of Food Security and Nutrition in the World

世界の飢餓は減少するも、 アフリカと西アジアで増加

2024年、飢餓に直面した人びとは世界でおよそ6億7,300万人でした。これは2023年より1,500万人、2022年より2,200万人少なく、**少しずつ改善の兆しが見えています。**

しかし、この数値はまだ新型コロナウイルスのパンデミック前を上回っており、**近年続く食料価格の高騰が回復を妨げているのが現状です。**

地域別では、南アジアやラテンアメリカで改善が見られる一方、アフリカと西アジアでは飢餓が深刻化しています。

特にアフリカでは人口の20%超、西アジアでも12.7%以上が飢餓に直面した可能性があります。

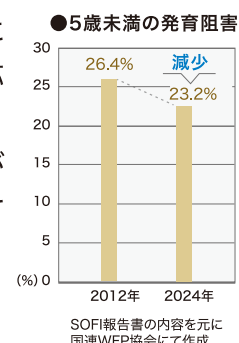
もしこのままの傾向が続けば、2030年までに世界で約5億1,200万人が慢性的な栄養不足に陥る可能性があり、その6割近くがアフリカに集中すると見込まれています。

もっと詳しく!

栄養目標の追跡

子どもの発育阻害は2012年と比較し減少

発育阻害とは、日常的に栄養を十分に取れずに慢性栄養不良に陥り、年齢相応の身長まで成長しない状態のことです。脳の認知能力を十分に発達させることができず、学齢期の学びや、大人になってからの労働にも影響を及ぼします。

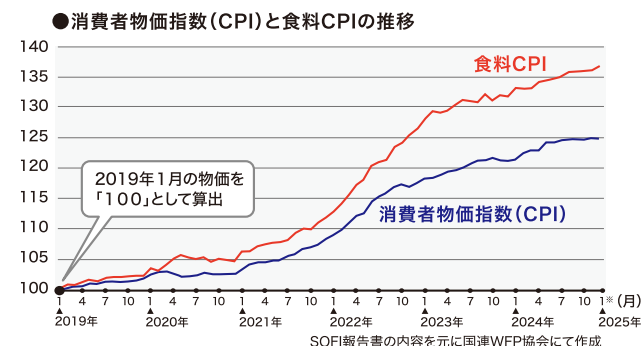


もっと詳しく!

食料インフレ

物やサービスを上回る食品の物価高騰

低所得国では、食費が高所得国よりも大幅に上昇したため、「健康的な食事」をとれない人が増加しています。



●このグラフは、203か国または地域の消費者物価指数(CPI)の中央値に基づいています
※CPIおよび食品CPIのデータは2024年12月時点の数値になります

●消費者物価指数(CPI)：家庭で使う物やサービスの値段がどれくらい変動しているのかを調べるための指標です。

●食料CPI：食べ物や飲み物(お酒以外)の値段の変化を数字で表したものです。

なぜ食料インフレが起きてしまったのか

パンデミックの収束に伴い、各国政府が外出制限を緩和し始めた結果、需要が急増し、世界的なインフレが進行。ウクライナ戦争は、この危機をさらに悪化させました。2022年に戦争が始まる前、ウクライナは小麦、ヒマワリ油、肥料の主要輸出国でした。戦争はこれらの輸出を制限しただけでなく、貿易ルートを混乱させ、燃料費と原材料費を高騰させ、世界中のインフレを加速させました。さらに、干ばつ、洪水など、主要生産地域では気候変動による災害の頻度と激しさが増し、食料インフレが一層悪化してしまったのです。



栄養補助食品を食べるエセイくん



中央アフリカ共和国

表紙の親子

中央アフリカ共和国・バンバリの保健センター。待合室に、若い父親と幼い息子が入ってきました。まわりは母親ばかりで、彼の姿はひととき目を引きま

す。20歳のシングルファーザーのアンセルムさんは、出産後に妻を亡くし、1歳半の息子エセイくんを一人で育てています。紛争の影響が色濃く残るこの地で、彼は懸命に息子を守っています。「息子の健康が何より大事」と語るアンセルムさん。病気と栄養不良で弱った息子をWFPが支援する保健センターに連れて行き、栄養指導を受けながら、少しずつ回復へと向かっています。彼らのようにWFPの支援が届いた地域では、子どもたちの命が確実に救われています。皆さまのあたたかいご支援が、未来を大きく変える力になるのです。



エチオピアにある難民キャンプの保健センターで栄養強化食品を受け取るスーダンからの難民のアンナさんと家族。



アフガニスタン

西アジアに位置するアフガニスタンでは、約1,500万人が深刻な飢餓に直面しています。しかし、現在支援できているのはその3分の1に過ぎません。予算削減により、その数もさらに減少しています。「村全体が飢えているのに、支援はたった数世帯だけ」。食料支援を受け取っている人も、自分と同じように困っているのに、支援を受けられない人がいると知ると、罪悪感を抱きます。支援を受けられるかどうかは今や紙一重です。さらなる人道支援が今、強く求められています。



© WFP/Ziauddin Safi

アフガニスタンの首都カブール西部にあるWFPの配給所で家族と共に待機する10歳のサディアちゃん(中央、カメラに向かって)。